

夜間ゼミ 野菜栽培の基礎

4. イチゴ栽培の基礎

県農業経営課 岐阜市駐在

1) いちごの魅力

① いちごはみんなの人気者

表1 好きなフルーツは？ (出典：C-NEWS編集部)

全体(n=300)			男性(n=150)			女性(n=150)		
1位	イチゴ	65%	1位	イチゴ	61%	1位	イチゴ	69%
2位	モモ	58%	2位	ミカン	51%	2位	モモ	67%
3位	ミカン	52%	3位	モモ	50%	3位	ナシ	58%
3位	ナシ	52%	4位	バナナ	48%	4位	ミカン	53%
5位	メロン	48%	5位	メロン	47%	5位	サクランボ	49%
6位	バナナ	46%	5位	ナシ	47%	5位	メロン	49%
7位	リンゴ	43%	7位	リンゴ	42%	7位	ブドウ・マスカット	45%
8位	サクランボ	40%	8位	パイナップル	36%	7位	グレープフルーツ	45%
8位	パイナップル	40%	9位	スイカ	35%	7位	リンゴ	45%
10位	ブドウ・マスカット	39%	10位	ブドウ・マスカット	33%	7位	パイナップル	45%

※食べたことのあるフルーツがある人ベース/主な項目

インターネットによる調査で、対象は15歳（中学生を除く）以上の男女300人（男性150人、女性150人）。

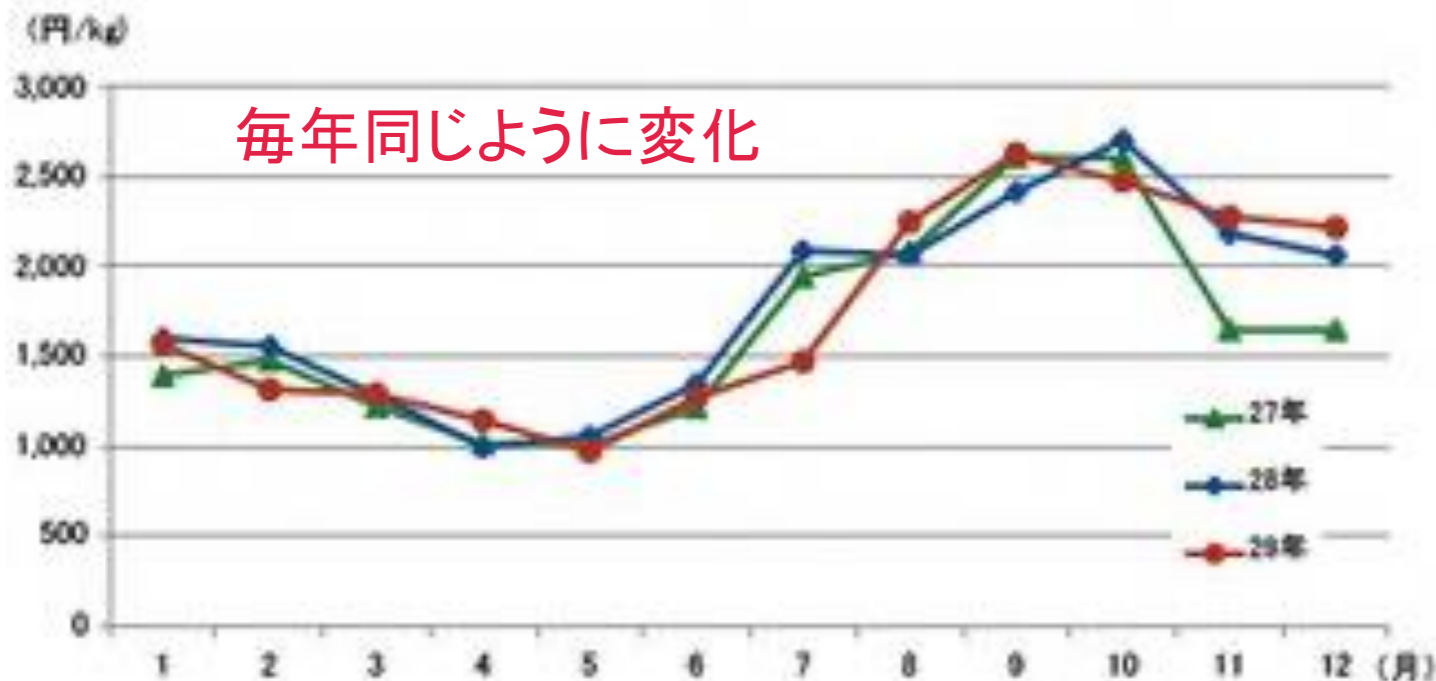
人気な理由

1. 果物の中で人気物
2. 手軽に食べられる
(そのまま)
3. 甘い、香りが良い
4. 子供、女性に特に人気
5. お菓子にも使われる
6. 全国に魅力的な品種がたくさんある

②生産でも人気

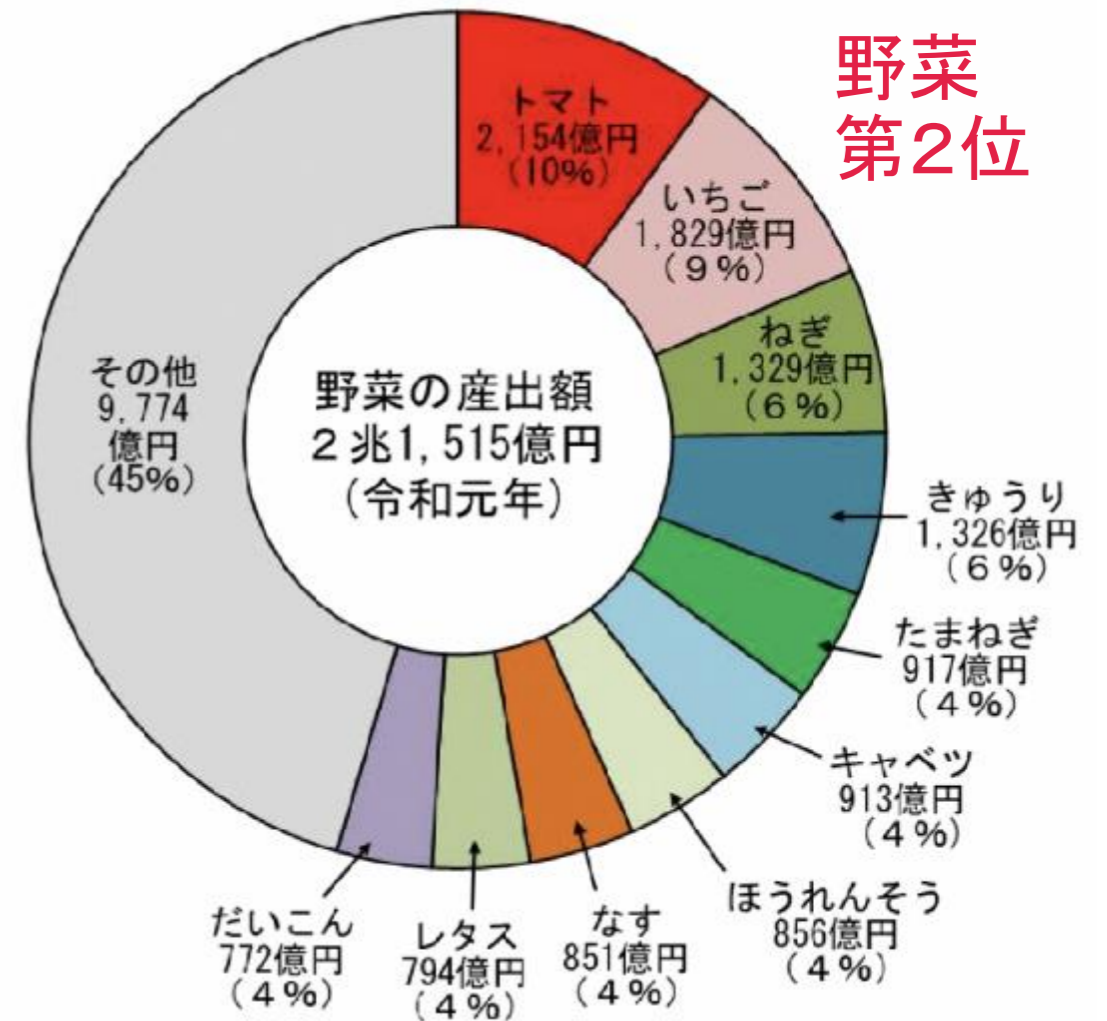
1. 販売単価が高値で取引される
2. 価格が安定している(変動が少ない)
3. イベントに使われる
クリスマス、ひな祭りなど
4. 収穫・出荷期間が長い
5. 新規就農がしやすい
6. 高設栽培などクリーンで
作業性が改善されている。

表2 いちごの卸売価格の月別推移(国内産)



資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料: 東京都中央卸売市場市場月報)

図1 野菜の産出額の品目別割合



野菜としての生産額は、第2の9%
ちなみに果物としての生産額と比較
しても、果樹で第1のみかんが、
1,736億円となっているため
果物類の生産額でも第1位

③わが国のいちご生産状況

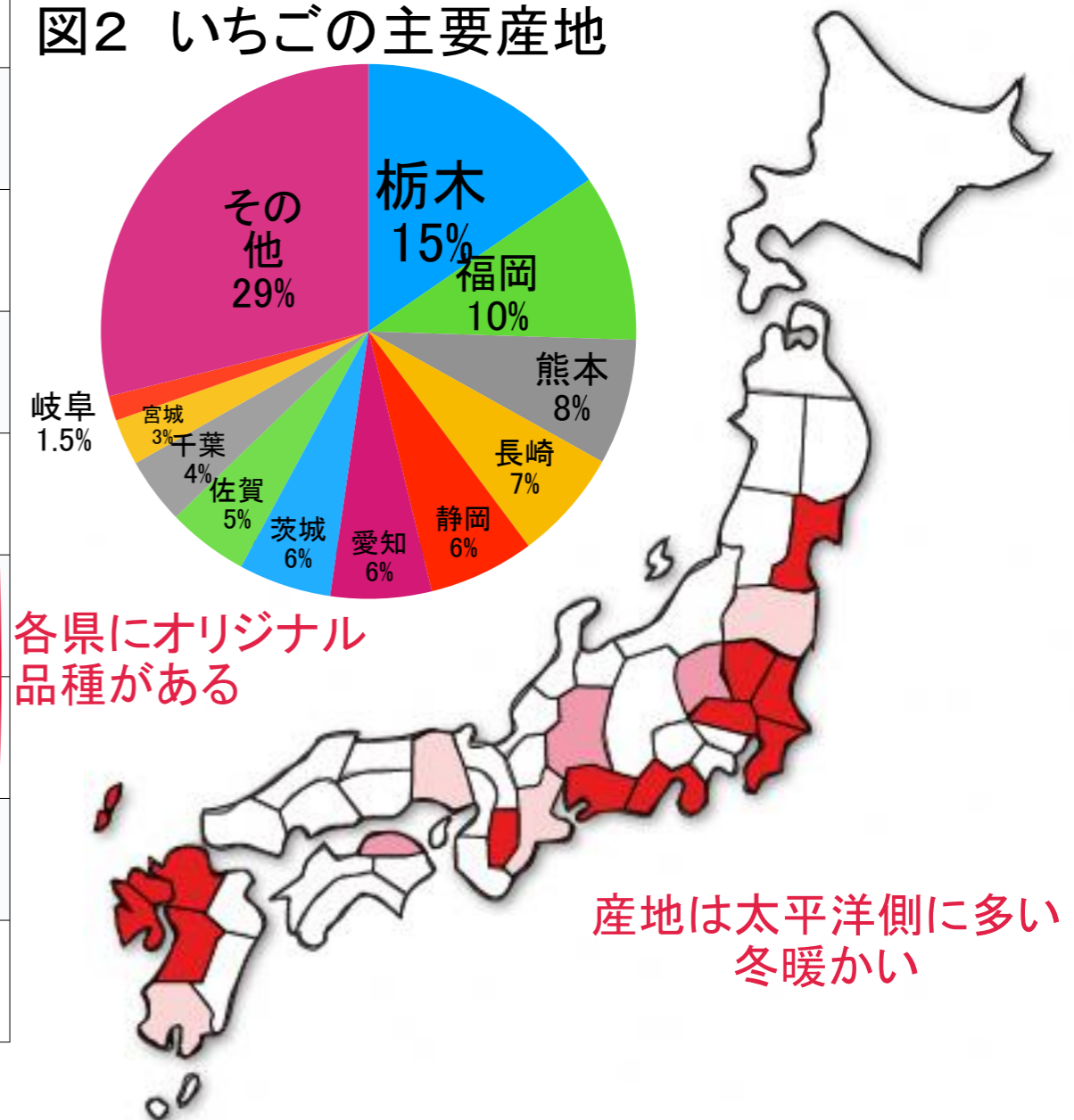
表3 各都道府県ごと生産量ランキング

順位	都道府県	収穫量(t)	割合	主な県開発品種
1位	栃木	25,400	15.4%	とちおとめ スカイベリー
2位	福岡	16,700	10.1%	あまおう
3位	熊本	12,500	7.6%	ゆうべに ひのしずく
4位	長崎	11,100	6.7%	こいのか
5位	静岡	10,600	6.4%	紅ほっぺ
6位	愛知	10,000	6.1%	ゆめのか
7位	茨城	9,240	5.6%	いばらキッス ひたち姫
8位	佐賀	8,170	4.9%	さがほのか いちごさん
9位	千葉	6,590	4.0%	ちばベリー ふさの香
10位	宮城	4,610	2.8%	もういっこ
15位	岐阜	2,540	1.5%	濃姫、美濃娘

イチゴの戦国時代

昔は、東の「女峰」、西の「とよのか」と呼ばれたほど、この2品種の勢力は強く、全国の栽培シェアを独占していた。ところが、各地(各県)で大きくて甘いイチゴの数多くの品種が発表され、栽培・出荷されて、多くの方が消費されている。

図2 いちごの主要産地



④岐阜県でのいちごの生産状況（JAグループ計）

表4 品種の動向

令和元年産

品種名	作付面積(a)	出荷量(t)
県品種1号		
濃姫	1250.5	447.9
主力品種		
美濃娘	1641.9	571.2
県新品種		
華かがり	136.3	63.8
とちおとめ	158.8	48.8
章姫	114.6	3.4
紅ほっぺ	204.5	38.8
その他	4.8	1.6

※全農岐阜販売実績

表5 各地区の栽培面積

令和元年産

地域	面積(a)	出荷量(t)	生産者数
県トップ産地：岐阜市、本巣市など			
岐阜	1833.3	648.5	129
西濃	809.6	312.0	50
揖斐	353.4	91.2	21
中濃	372.7	123.8	34
東濃	142.4	0.0	12
合計	3511.4	1175.5	246

※全農岐阜販売実績

平坦地域：冬でも日当たり良い

2) イチゴの生理生態

1. 草本で統計分類では野菜
2. 青果流通では果物(フルーツ)
3. 果実的野菜(他メロン、スイカ)
4. 野菜の果菜類に分類される



① イチゴとは

学名: *Fragaria virginiana* ✖ □ *F. Chiloensis*

(フラガリア バージニアナ フラガリア チロエンシス)

英名: Strawberry (ストロベリー)

科名: バラ科

原産地: *Fragaria virginiana* (北米原産) と

Fragaria Chiloensis (南米原産) が掛け合わされた種

適地: 温帯～亜熱帯に適した作物 生育適温 15～20℃

②いちごの原種と歴史

フラガリア バージニアナ

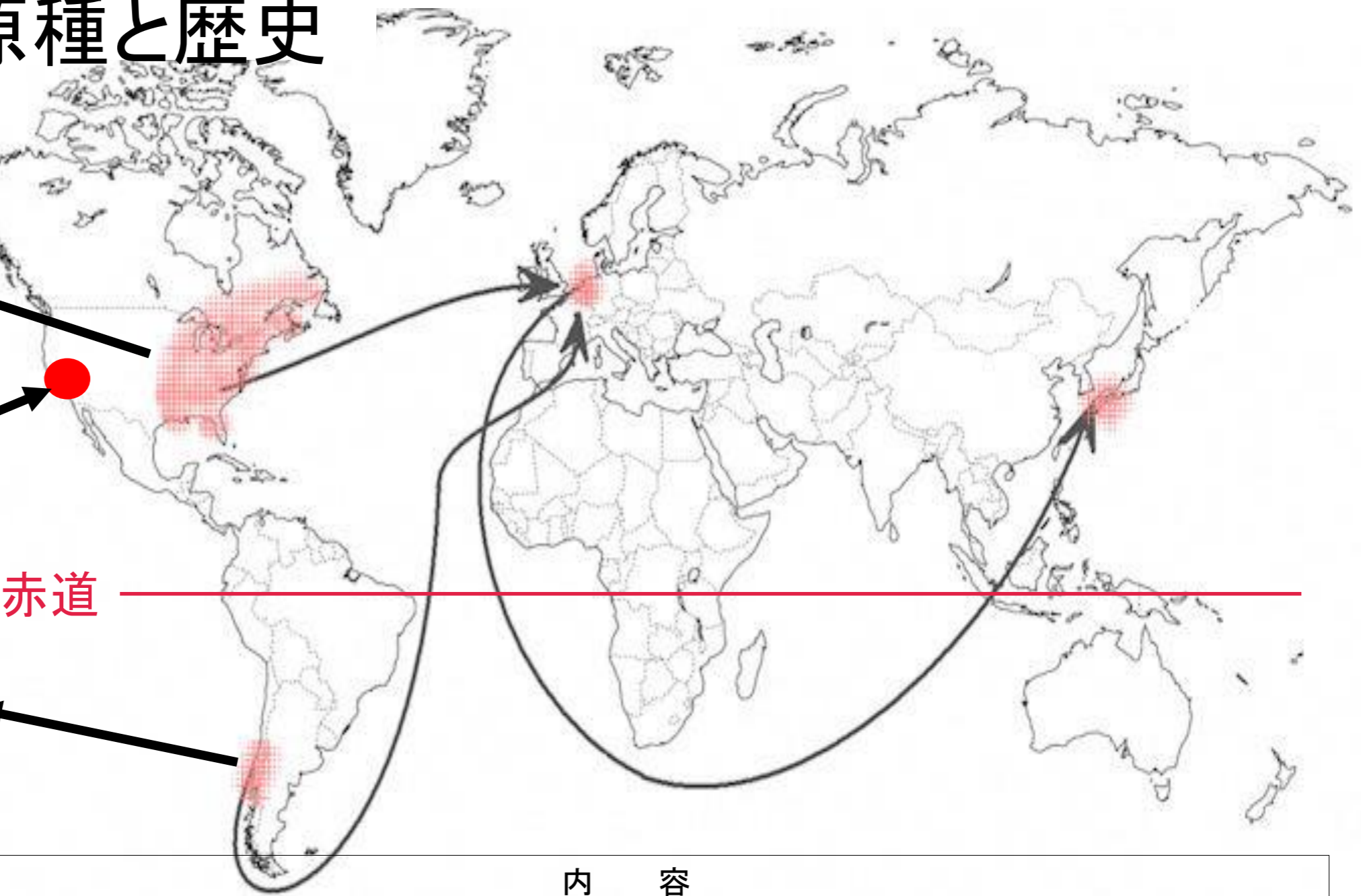


現在の大産地
カリフォルニア

フラガリア チロエンシス



赤道



年代	内容
1534年以降	北アメリカからバージニアナがヨーロッパへ導入、植物園を通じて各地で栽培
1714年	フレイジェがチリより、チロエンシスを雌株5株をヨーロッパフランスに持ち込む
1730~1750年	ヨーロッパ各地で広まったバージニアとチロエンシスが掛け合わされ出回り始めた。
1780頃	近代栽培イチゴがパインイチゴの名前でヨーロッパで話題にのぼり始めた。
1830頃	オランダ人によって長崎に入った（そのため日本ではオランダイチゴと呼ぶ）
1893年	商業栽培が始まる（東京、横浜など）
1904年	石垣栽培（静岡県）による促成イチゴが始まる。
1900前半	岐阜市（旧柳津町）佐波地区で栽培が始まる

③イチゴの生育特性

生育適温：18～23℃（低温○、高温×）

水と湿度：乾燥に弱い（水を好む）

光日射：強すぎる光はだめだが、光が必要

土の性質：水を保つ力が高く、ある程度の水分が必要。

増やし方：種でも増やすことができるが、通常はランナーという茎

（ほふく茎）を伸ばして、その先についた苗を使って増やす。

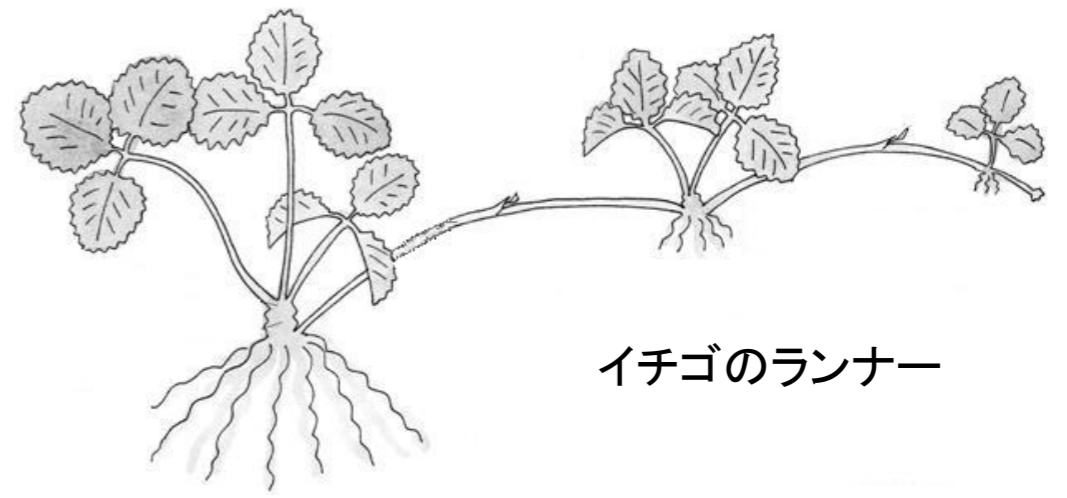
花芽分化：低温、短日長、低窒素で花芽が分化（花が咲く準備）

低温10～17℃、短日12時間程度

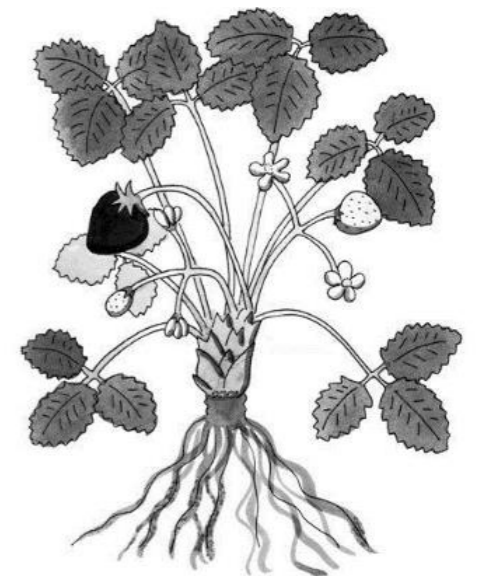
低窒素だと25℃、13時間以下で分化

休眠：イチゴは低温に強い方であるが、日本の冬は耐えることができないため、寒さに耐えられるよう成長をとめる。

このことを休眠と呼び、休眠中は春のように日が長くなり、暖かくなると成長しない。



イチゴのランナー



イチゴの株

④日本における自然状況下での生育特徴

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---	---	---	---

①繁殖方法



②花芽分化



③休眠



④開花・収穫



収穫期間は短い

①繁殖方法(5~7月)

イチゴの増やし方は、ランナーとを伸ばし、その先ついた苗を使う。
1株にランナー10本、1本から3苗

③休眠(11~2月)

冬の寒さに耐えられるように休眠を行い成長を止める。

②花芽分化

イチゴは、果実をつけさせるため、花を咲かせないといけない。その花をつけさせるために花芽を分化させなければいけない。自然環境下では、秋の低温と短日により行われる。

④開花・収穫(4~5月)

春になると、温度が上がり、日が長くなるため休眠がとかれる。休眠がとかれると成長が始まり、花が咲き、実がなる。

①繁殖：初夏になり、気温が上昇、日が長くなると花芽分化が止まり、ランナーが出る

3) イチゴ栽培方法

作型	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
露地栽培												
ハウス促成												

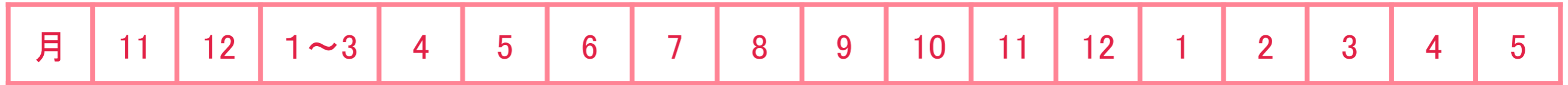
- ・ランナー発生
- ・苗取り
- ・切り離し

花芽分化技術

電照

収穫 (12~5月まで)

①育苗



親苗購入



育苗開始

ポット受け

切り離し

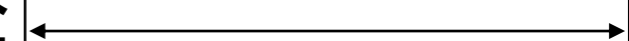
定植

冬支度

保温

収穫開始

収穫終了



親株の養成（前年の春から秋まで）

子苗の採苗～管理（6～9月）



ランナー出し

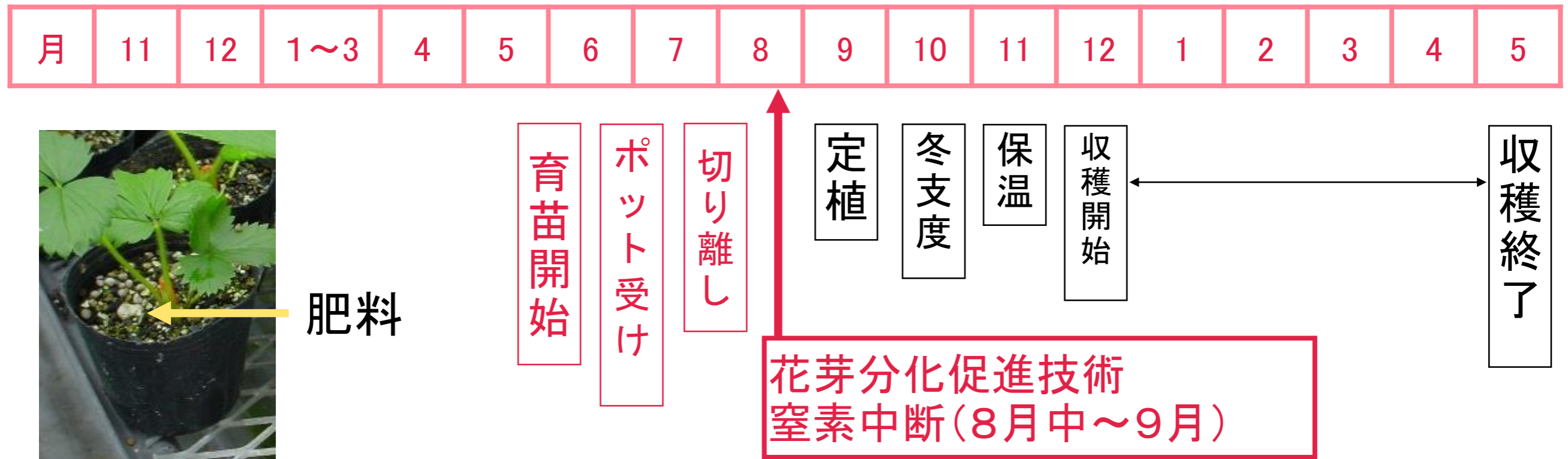


ポット受け



切り離し（肥料）

②花芽分化を早める（花芽分化促進技術）



花芽分化を早める技術(花芽分化促進技術)

花芽分化が行われる条件

- ・低温10～17℃
- ・短日12時間程度

これだと10月にしか
花芽分化してくれない
クリスマスに出荷できない

窒素中断

窒素肥料成分を減らして、花芽分化を促進する技術(ポット育苗だと簡単にできる)

窒素中断だと25℃、13時間以下で分化

9月上旬～中旬に花芽分化する
12月には出荷できる(クリスマスに間に合う)

③ 植え付け（定植）

月	11	12	1~3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
---	----	----	-----	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---	---	---

定植のポイント

定植は、花芽分化を確認してから行う。

注意：

花芽を確認してから定植を行う
花芽がなくて定植すると花芽分化が遅れてクリスマスに収穫が出来ない。

育苗開始

ポット受け

切り離し

定植

冬支度

保温

収穫開始

収穫終了

花芽分化の確認
(花芽検鏡)

花芽検鏡



花芽を顕微鏡で確認する



土耕栽培(植え付け作業)

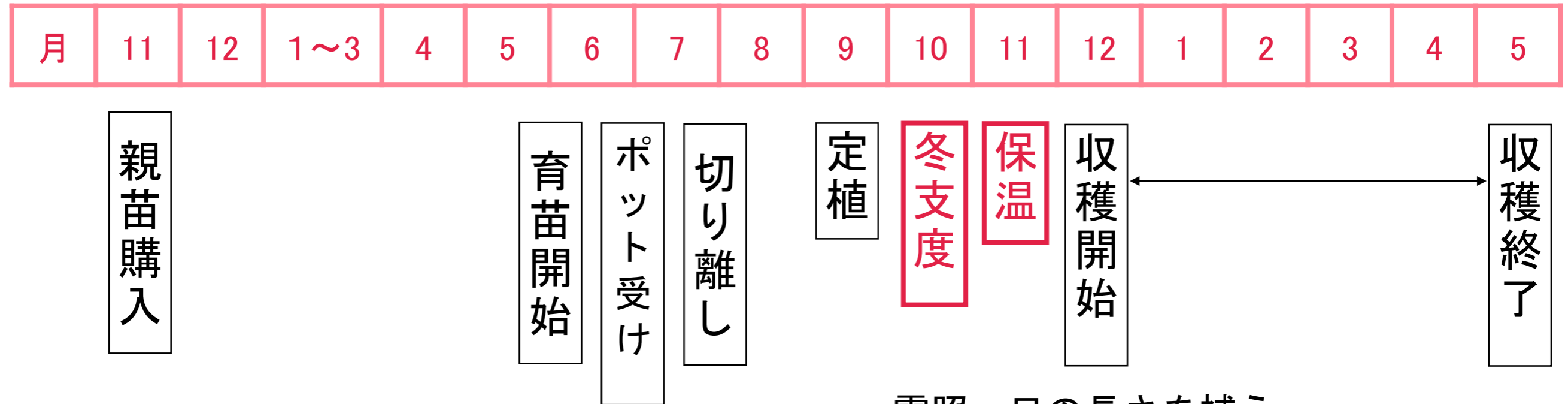


植え付け後の状態



高設栽培(植え付け作業)

④冬支度（保温準備）



電照：日の長さを補う



マルチ張り



ビニル張り



冬でないよとだます



イチゴの種

受粉作業
ミツバチ導入



暖房
暖房機で温
度を保つ



⑤収穫作業～出荷作業

月	11	12	1～3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
---	----	----	-----	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---	---	---

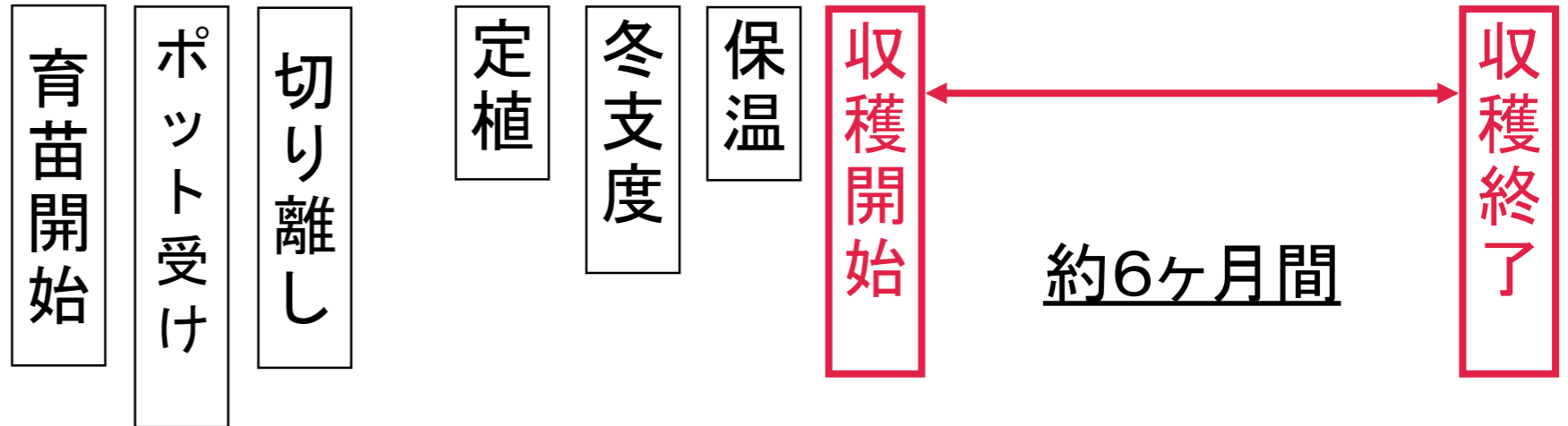
収穫時期（11～5月）



高設栽培



土耕栽培



収穫作業



パック詰め



出荷作業
農協の出荷場

4)まとめ いちご栽培に必要な施設

①ハウス設備



②育苗ハウス



③高設ベンチ(養液栽培)

